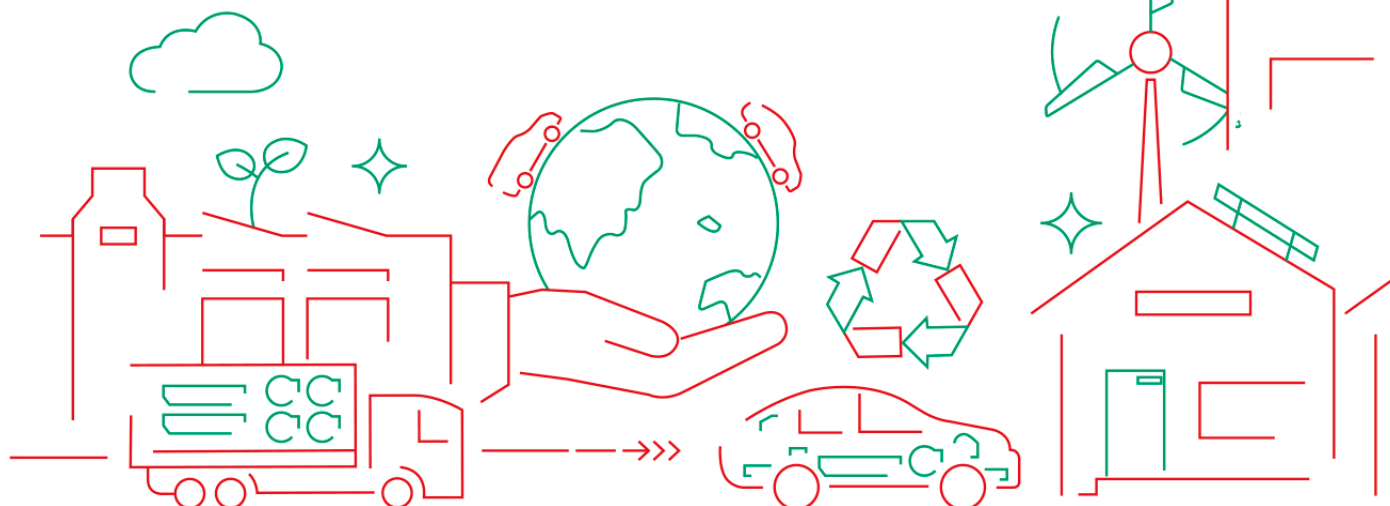


リョービ株式会社 2022年12月期 第2四半期 決算説明会資料

(証券アナリスト、機関投資家向け)

2022年8月5日



目次

1. 2022年12月期 第2四半期決算実績	P.3
2. 2022年12月期 通期業績予想	P.13
3. 事業別状況・トピックス	P.21
(1) ダイカスト事業	
(2) 住建機器事業	
(3) 印刷機器事業	
(4) 統合報告書の発行について	
(5) サステナビリティ ESG/SDGs	
4. 株主還元	P.40



1. 2022年12月期 第2四半期決算実績



1. 2022年12月期 第2四半期決算実績

RYOBI

決算のポイント

➤ 連結業績 増収・増益 (前年同期比)

(ダイカスト)

- ・ 国内・海外ともに増収 世界的な半導体などの部品不足や中国上海のロックダウンによる自動車生産への影響で生産量（重量）については回復が見られなかったが、原料価格上昇分の販売価格への転嫁が進んだことや、円安により在外子会社の売上高が増加したことなどにより増収
- ・ 損益は増収の効果などにより増益

(住建機器)

- ・ 国内・海外ともに増収 損益は中国人民元高による調達コスト上昇で減益

(印刷機器)

- ・ 国内・海外ともに増収 国内は政府等の補助金による設備投資の促進効果に加え、海外は欧米向けが堅調に推移し増収
- ・ 損益は増収の効果や原価低減により増益

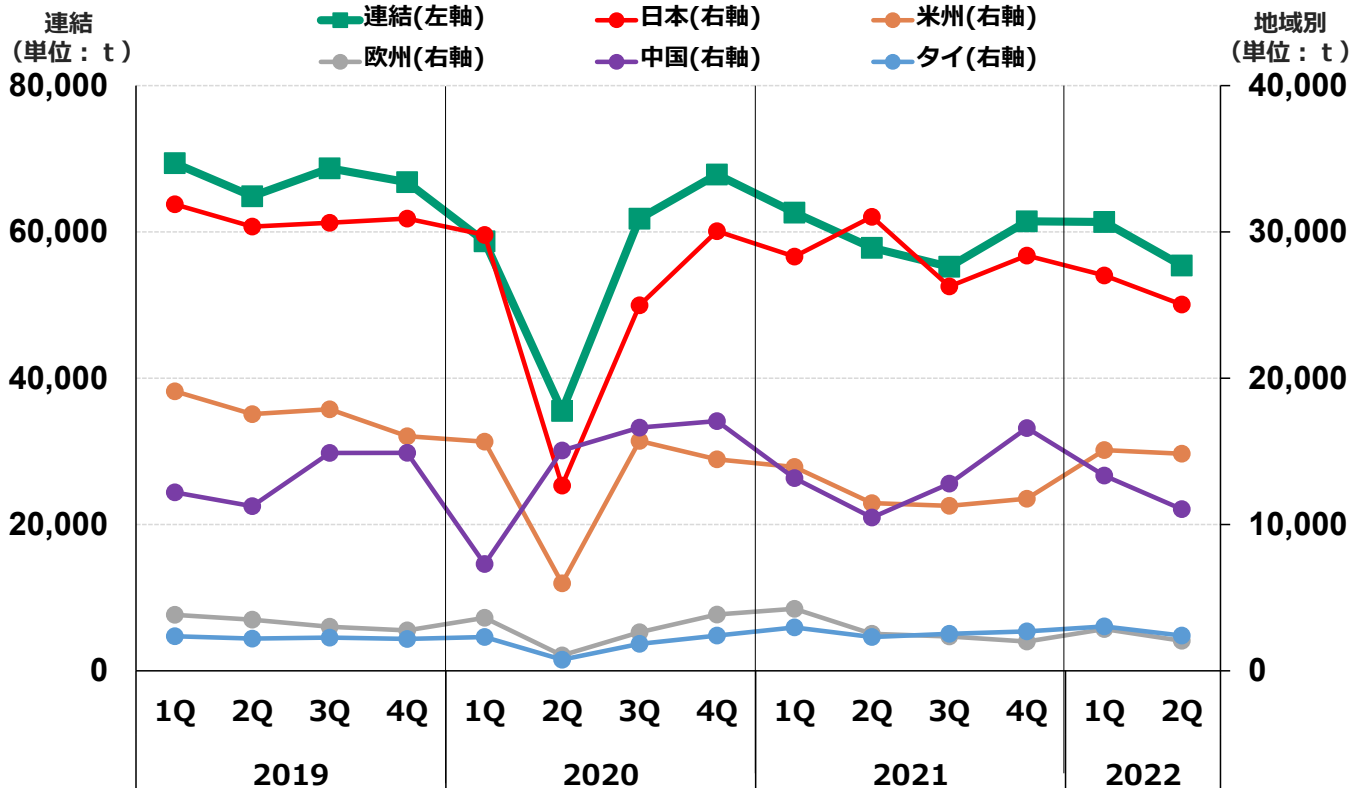
➤ 2022年12月期予想

- ・ 前年同期比で増収増益
- ・ ダイカストセグメントにおいて、2022年後半には半導体などの部品不足や中国上海のロックダウン影響から自動車生産が回復すると見込む
- ・ 第3四半期以降も原料価格上昇分の販売価格への転嫁が続くと予想

ダイカスト生産重量の推移

2021年後半から生産は回復傾向であったが、半導体などの部品不足や中国上海のロックダウンの影響により、前年同期比で減少

生産重量の推移('19年第1四半期～'22年第2四半期)



5/43

実績サマリー

自動車生産減少で生産量（重量）は減少したが、原料価格上昇や円安の影響により前期比増収 原料価格上昇分の販売価格への転嫁や為替差益の発生で増益

(単位: 億円)

	'21/12期 第2四半期累計		'22/12期 第2四半期累計		
	実績	実績	前期差 (前期比)	業績予想 (2/14)	業績予想差 (業績予想比)
売上高	956	1,136	180 (18.9%)	1,148	△12 (△1.0%)
営業利益	△6	20	27 (-)	18	2 (13.8%)
経常利益	1	31	30 ※ (-)	18	13 (71.7%)
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	2	18	16 (700.6%)	12	6 (50.6%)

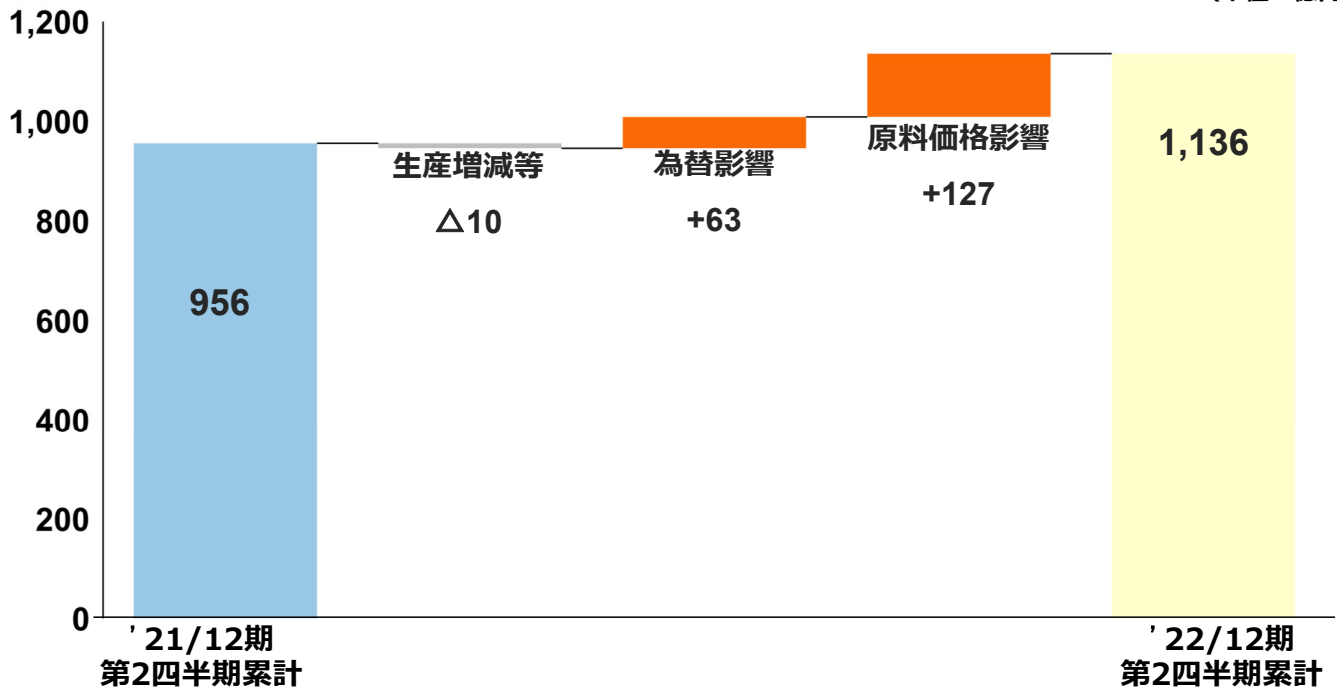
※経常利益の対前期増減率は、1,000%以上となるため「-」と記載している

6/43

売上高増減要因

前年同期比で、ダイカストの生産量は減少したが、原料価格上昇及び円安の影響により180億円の増収

(単位：億円)



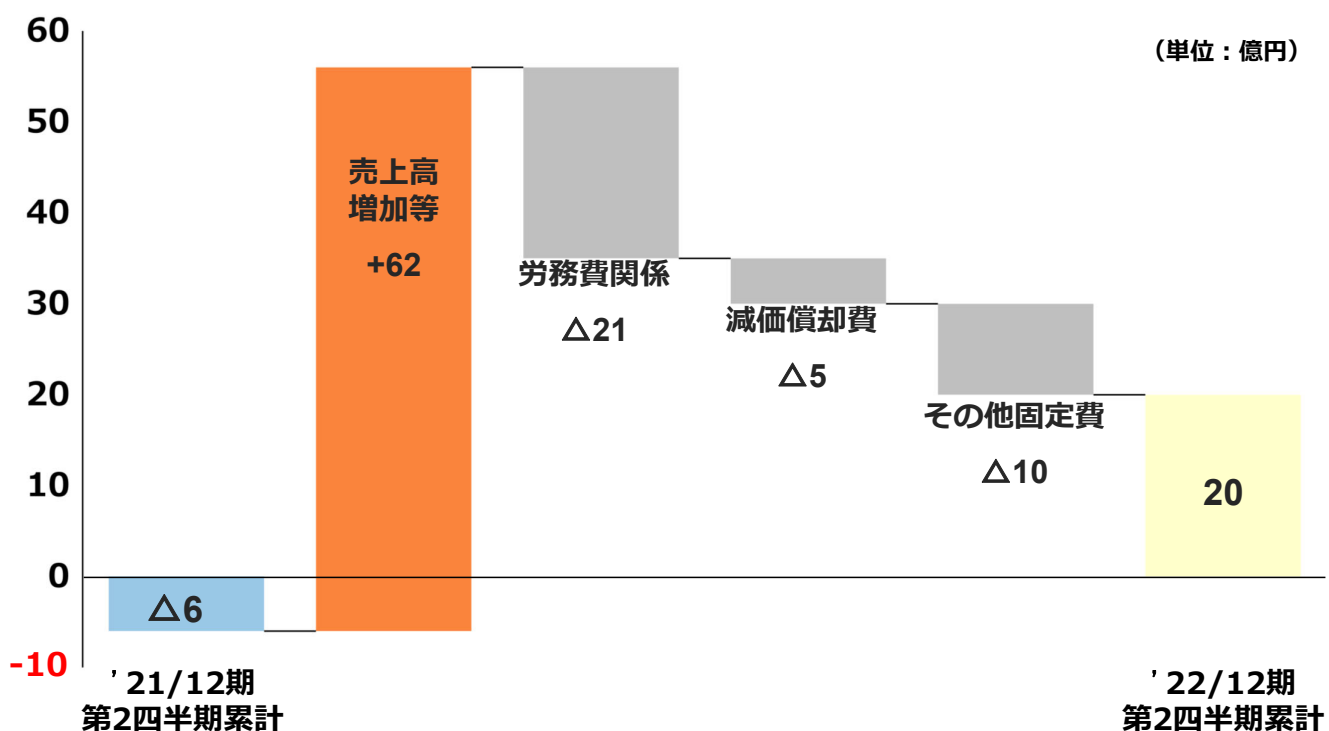
為替レート (期中平均)	米ドル	英ポンド	中国元	タイバーツ
'21/12期第2四半期	107.31円	149.00円	16.58円	3.50円
'22/12期第2四半期	121.19円	158.62円	18.76円	3.61円

7/43

営業利益増減要因

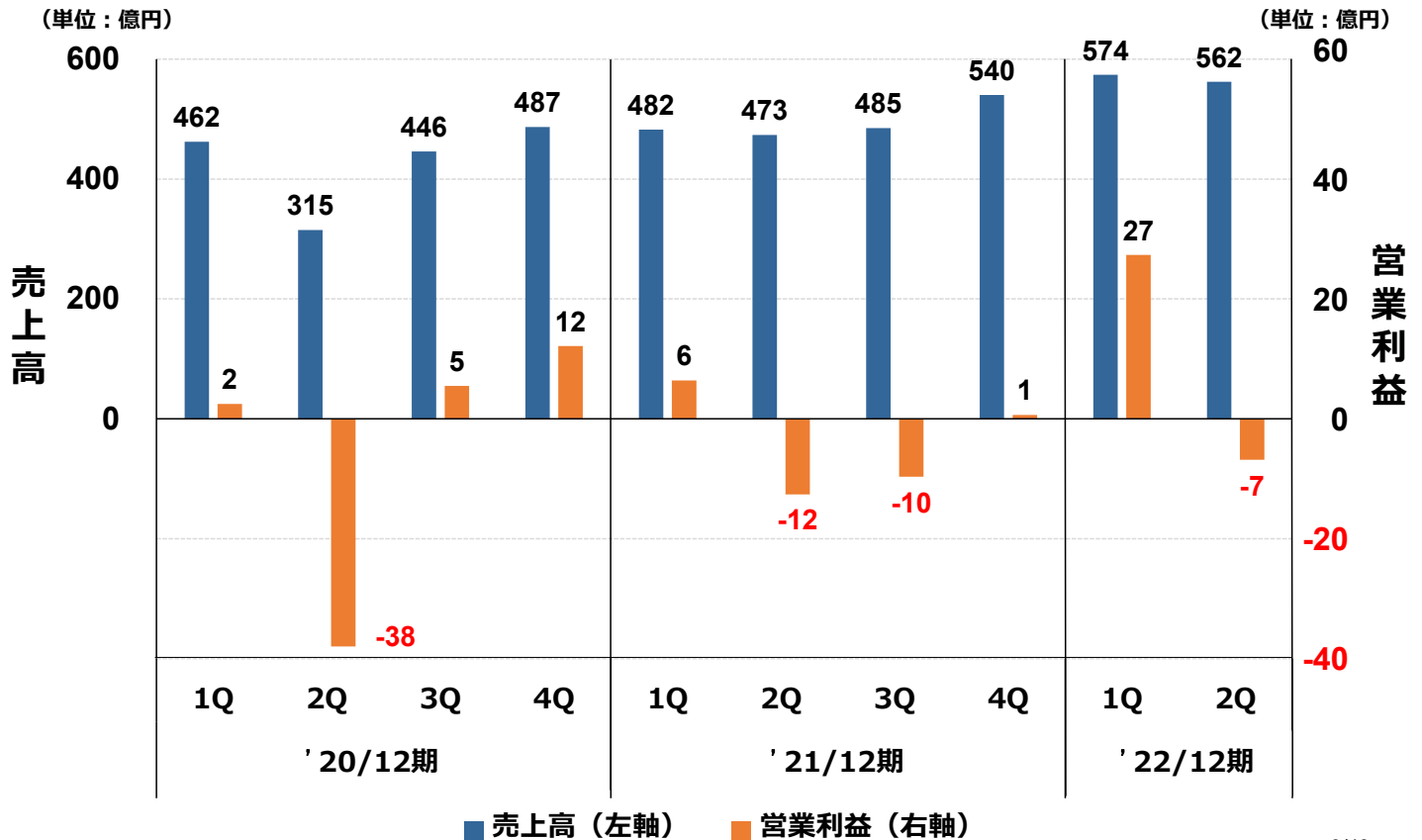
固定費は増加したが、増収効果により営業利益は増益

(単位：億円)



8/43

第2四半期（2022/4~6）は自動車生産の急速な落込みにより営業赤字



セグメント別実績

- ダイカスト : 生産量は減少したが、原料価格上昇と円安の影響で増収増益
- 住建機器 : 増収だが、中国人民元高の影響により減益
- 印刷機器 : 国内外の増収効果で増益

(単位: 億円)

	'21/12期 第2四半期累計		'22/12期 第2四半期累計		
	実績	実績	前期差 (前期比)	業績予想 (2/14)	業績予想差 (業績予想比)
売上高	956	1,136	180 (18.9%)	1,148	△12 (△1.0%)
ダイカスト	821	982	160 (19.5%)	1,000	△18 (△1.8%)
住建機器	45	49	4 (8.1%)	45	4 (8.6%)
印刷機器	88	105	16 (18.6%)	103	2 (1.5%)
営業利益	△6	20	27 (—)	18	2 (13.8%)
ダイカスト	△4	12	16 (—)	16	△4 (△26.0%)
住建機器	2	1	△1 (△45.4%)	1	0 (27.0%)
印刷機器	△5	7	12 (—)	1	6 (644.0%)

貸借対照表

総資産は前期比222億円増加、うち為替影響で180億円増加
前期末の休日影響で現預金は40億円減少

(単位：億円)

	'21/12期	'22/12期 第2四半期	増減	うち 為替影響		'21/12期	'22/12期 第2四半期	増減	うち 為替影響
流動資産	1,296	1,412	116	71	流動負債	1,108	1,106	△1	52
現預金	285	228	△57	8	仕入債務	416	416	△0	12
売上債権	443	544	101	28	短期借入金	510	479	△31	30
有価証券	7	7	△1	0	その他	182	212	30	10
棚卸資産	525	587	62	33	固定負債	369	451	82	13
その他	35	46	11	2	長期借入金	228	306	79	10
固定資産	1,498	1,604	106	109	その他	142	145	3	3
有形固定資産	1,172	1,269	97	97	株主資本	1,116	1,138	22	1
無形固定資産	32	31	△1	2	その他の包括利益 累計額	113	230	116	114
投資その他の資産	295	304	9	10	非支配株主持分	88	91	3	-
繰延資産	0	-	0	-	純資産合計	1,317	1,458	141	115
資産合計	2,794	3,016	222	180	負債・純資産合計	2,794	3,016	222	180

為替レート（期末日）

	米ドル	英ポンド	中国元	タイバーツ
'21/12期	115.02円	155.24円	18.06円	3.43円
'22/12期第2四半期	136.68円	165.71円	20.38円	3.85円

11/43

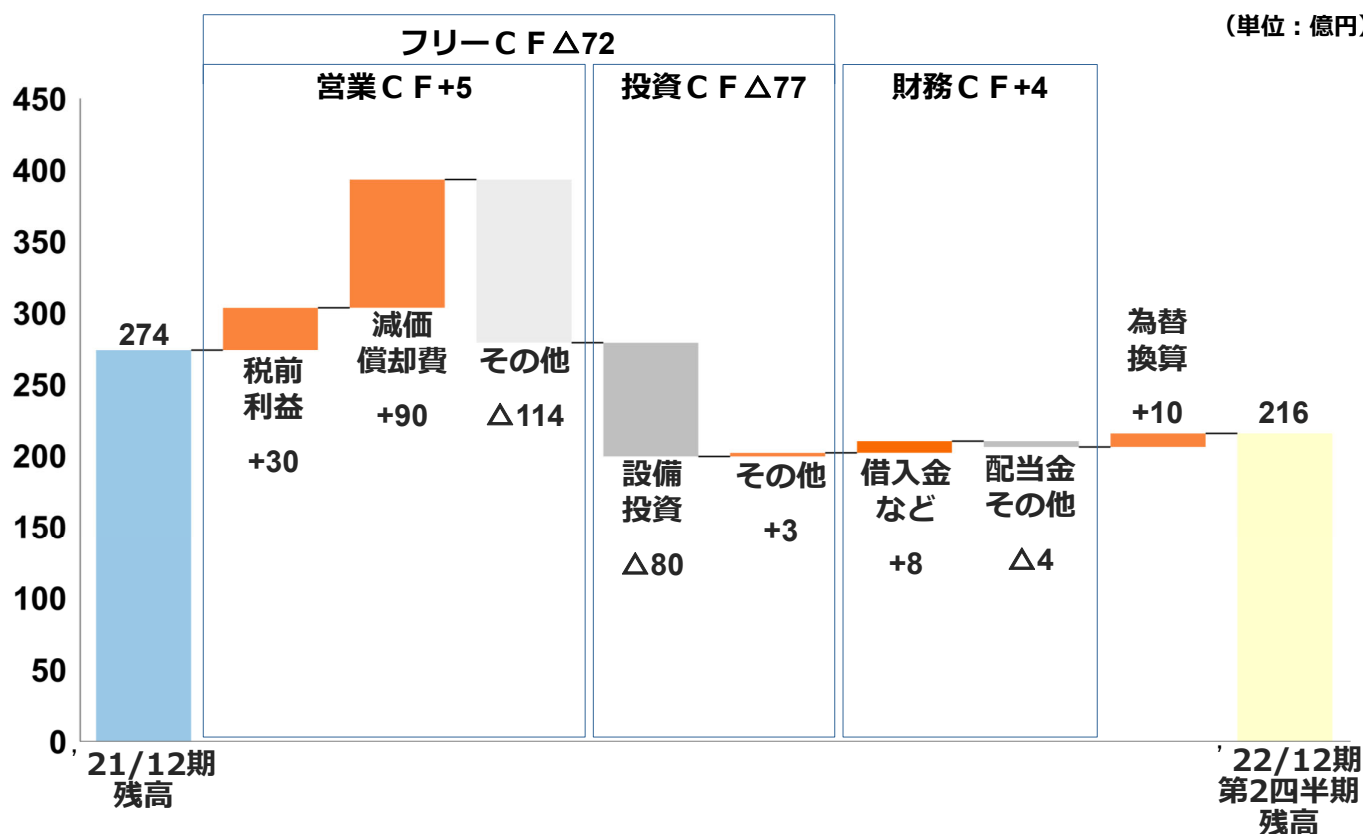
キャッシュフロー増減

1.2022年12月期 第2四半期決算実績

RYOBI

フリーCF△72億円のうち、前期末休日の影響は△40億円
軽量化・電動化の新規受注品に対応した設備投資を実施

(単位：億円)



12/43

2. 2022年12月期 通期業績予想



業績予想

2.2022年12月期 通期業績予想

RYOBI

前年同期比、増収増益

(単位：億円)

	' 21/12期	' 22/12期	
	実績	業績予想 (8/4修正)	前期差 (前期比)
売上高	1,981	2,480	499 (25.2%)
営業利益	△15	64	79 (-)
経常利益	0	76	76 ※ (-)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△44	51	95 (-)

※経常利益の対前期増減率は、1,000%以上となるため「-」と記載している

セグメント別業績予想

ダイカスト：自動車生産の回復、原料価格の販売転嫁により増収増益

住建機器：増収だが、中国人民元高の影響により減益

印刷機器：国内外の増収効果で増益

(単位：億円)

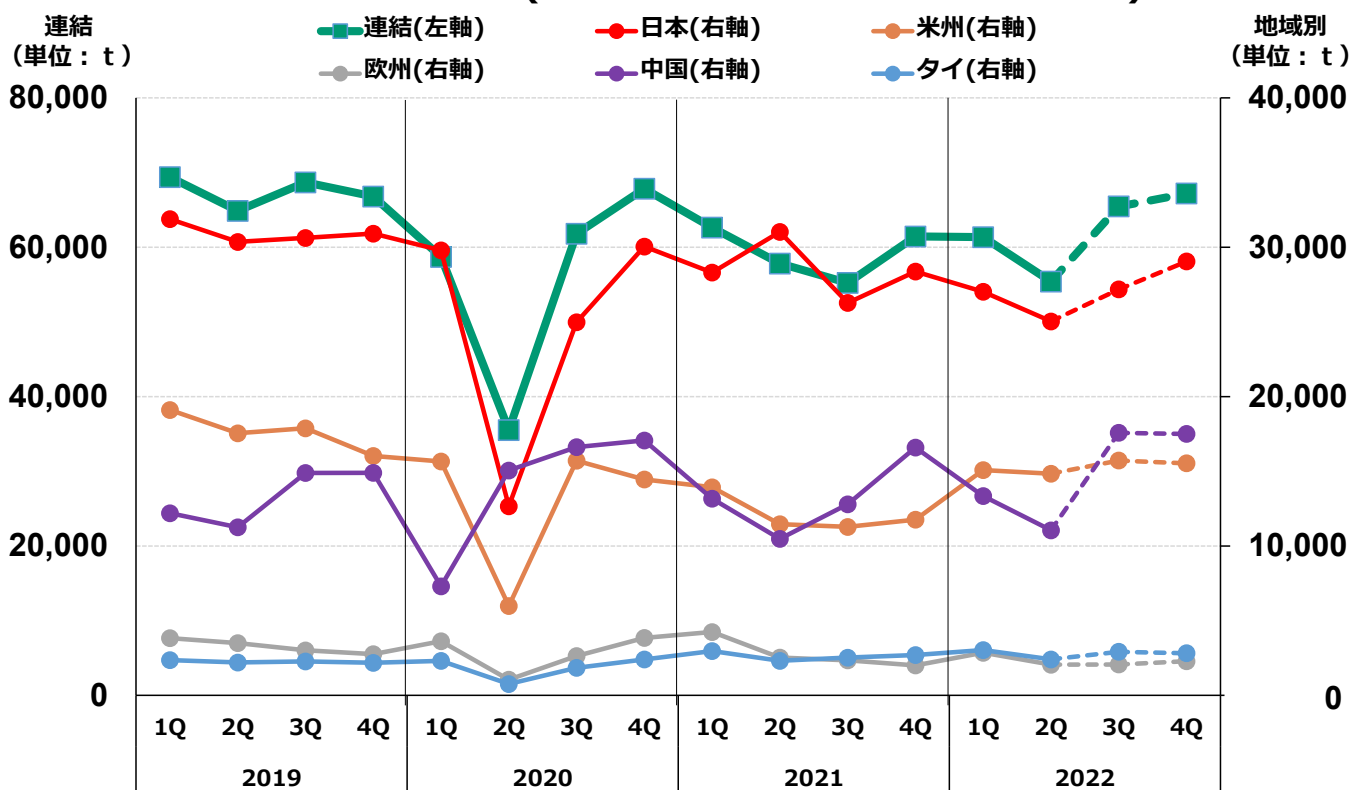
	'21/12期	'22/12期	
	実績	業績予想 (8/4修正)	前期差 (前期比)
売上高	1,981	2,480	499 (25.2%)
ダイカスト	1,699	2,150	451 (26.5%)
住建機器	96	100	4 (4.4%)
印刷機器	184	230	46 (25.0%)
営業利益	△15	64	79 (-)
ダイカスト	△14	54	68 (-)
住建機器	4	3	△1 (△17.1%)
印刷機器	△4	7	11 (-)

15/43

ダイカスト生産重量の推移

2022年後半は、半導体などの部品不足や中国上海のロックダウン影響から回復し、2019年と同程度の生産を予想

生産重量の推移('19年第1四半期～'22年第4四半期)



16/43

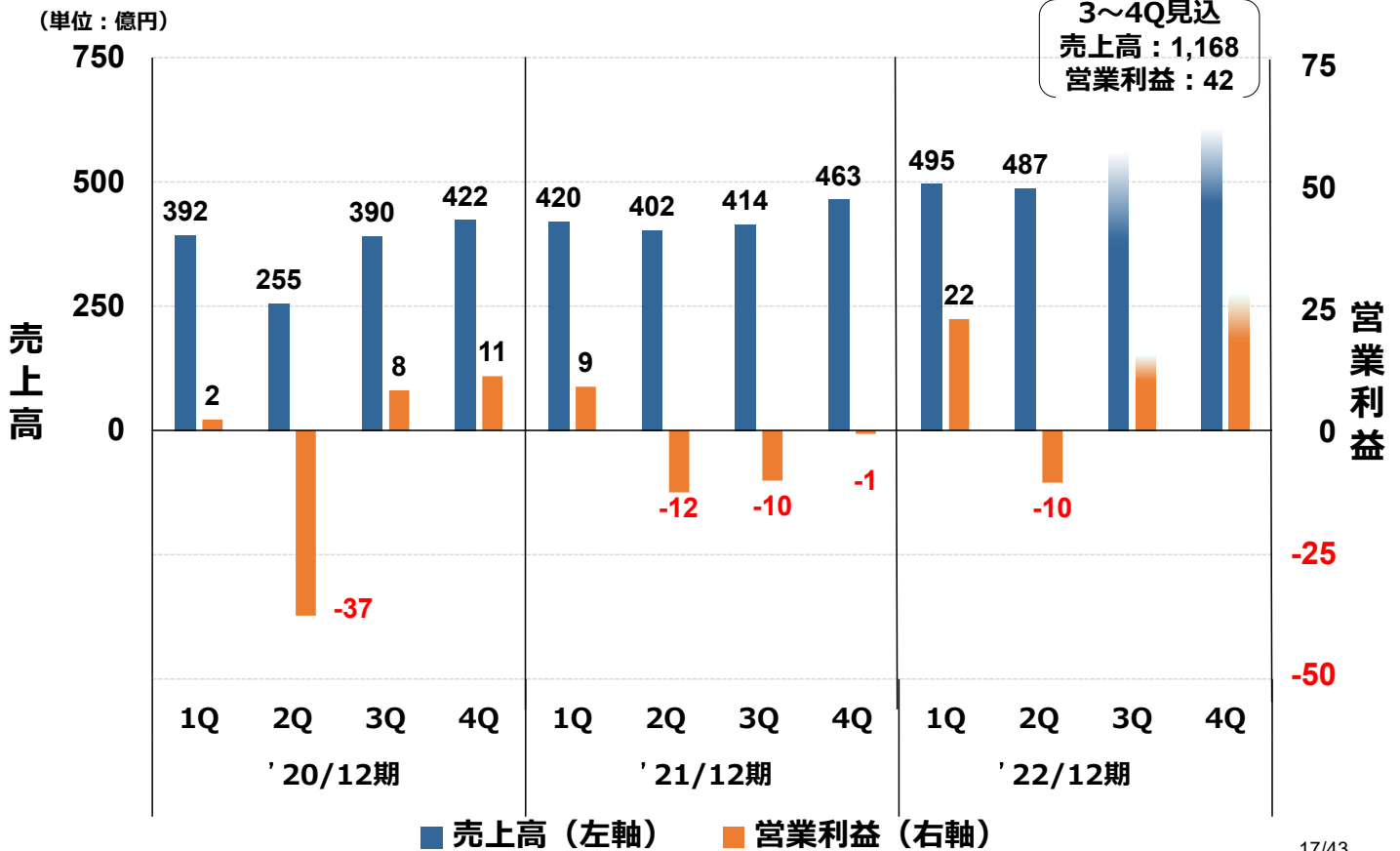
売上高、営業利益の推移

2.2022年12月期 通期業績予想
ダイカスト事業



2022年後半は自動車生産の回復、原料価格上昇分の販売価格への転嫁が進み、増収増益を見込む

(単位：億円)



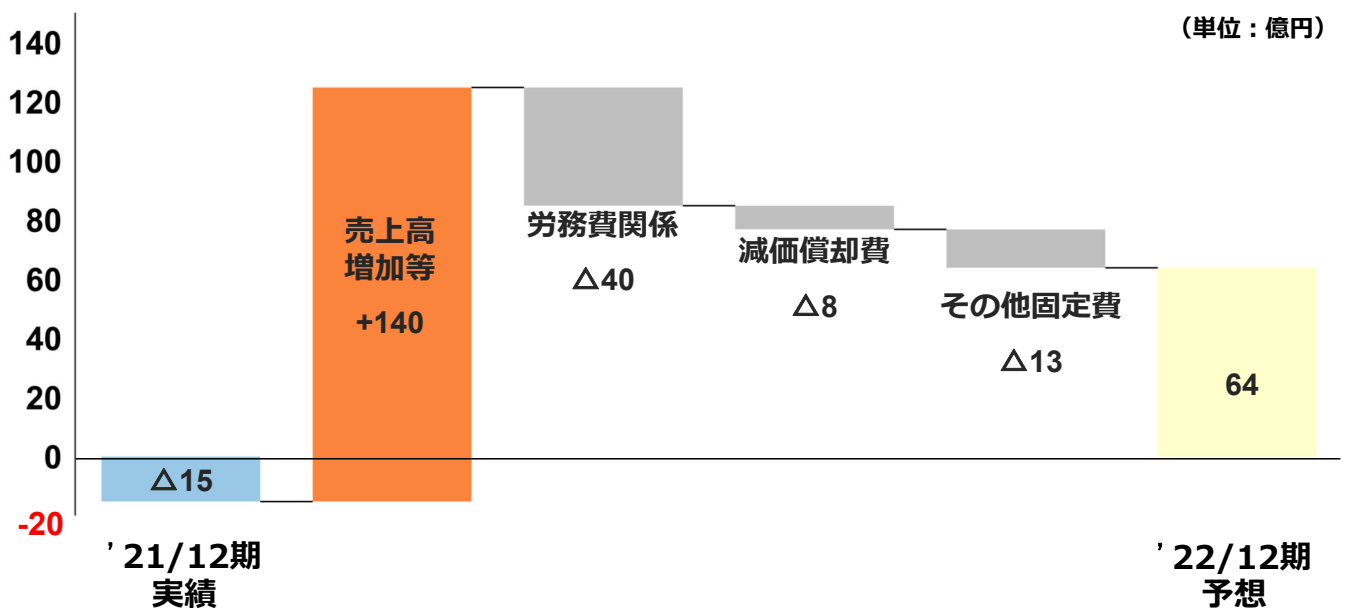
17/43

営業利益予想増減要因

2.2022年12月期 通期業績予想



生産の増加に伴い、主に海外拠点で労務費などの固定費が増加するが、国内外の増収効果により増益



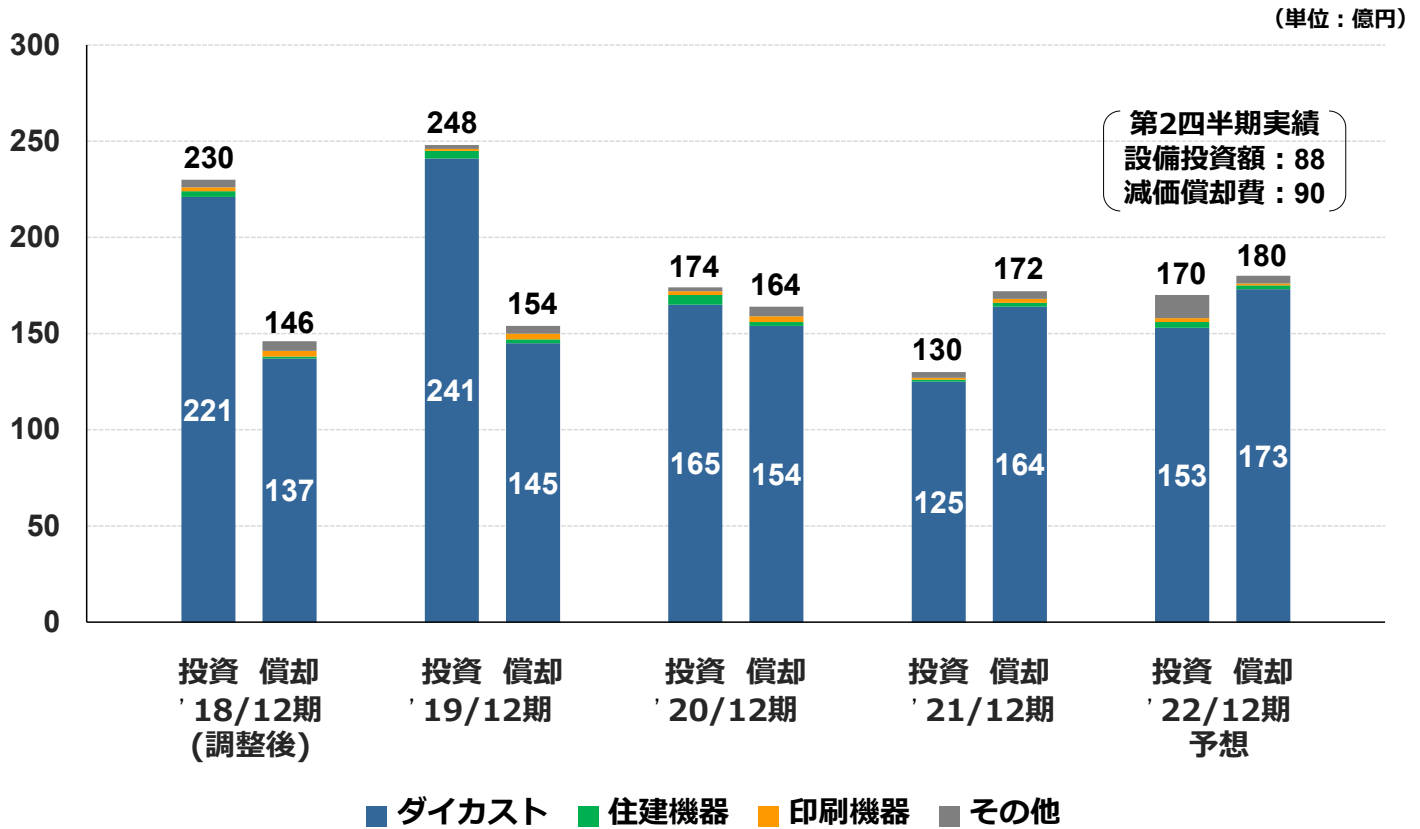
為替レート (期中平均)	米ドル	英ポンド	中国元	タイバーツ
'21/12期	109.46円	150.64円	16.96円	3.44円
'22/12期 (予想)	125円	156円	19.0円	3.6円

為替が1%円高に変動した場合の年間営業利益への影響額
 米ドル △40百万円
 英ポンド △10百万円
 中国元 +10百万円

18/43

設備投資・減価償却費推移

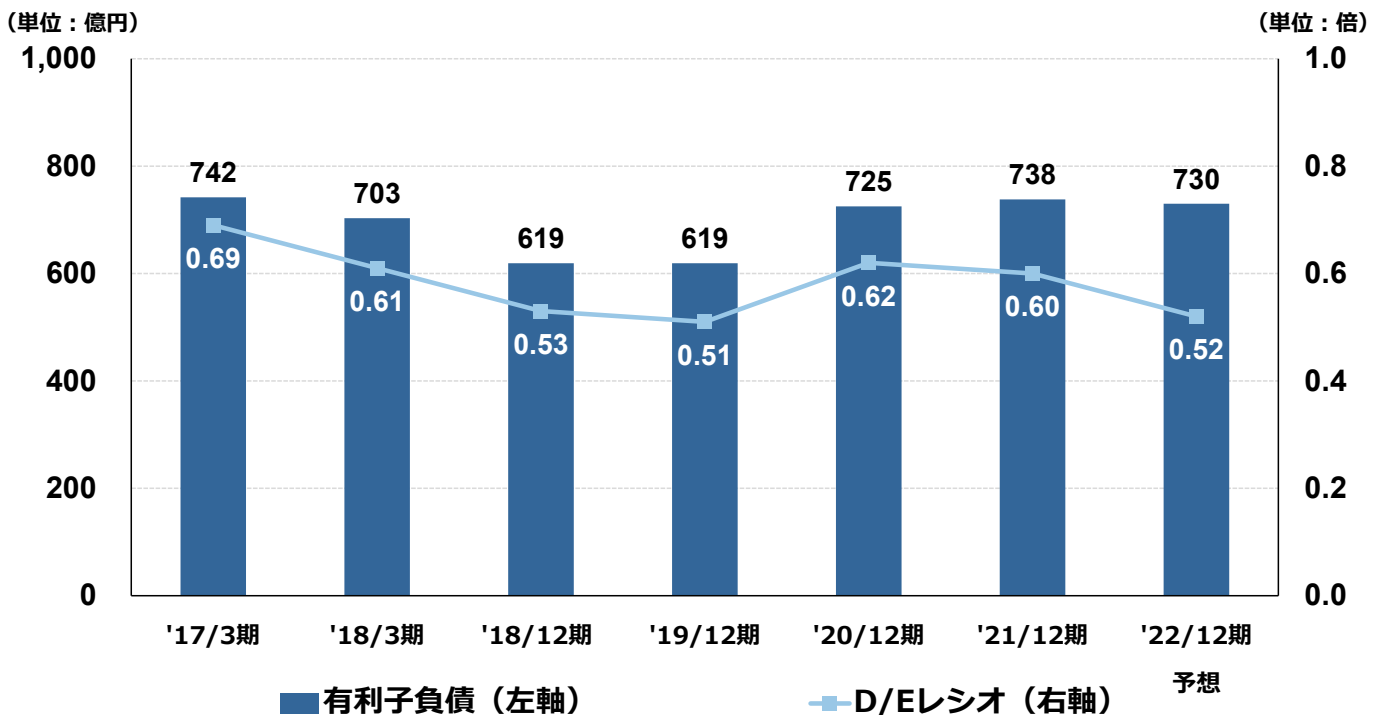
2022年12月期は、投資は170億円、償却費は180億円を予想
(前回予想から変更なし)



19/43

有利子負債・D/Eレシオ推移

当期末の有利子負債残高は730億円を予想 (前回予想から変更なし)



	'17/3期	'18/3期	'18/12期	'19/12期	'20/12期	'21/12期	'22/12期 予想
借入金依存度 (有利子負債/総資産)	28.2%	25.8%	23.0%	23.5%	28.0%	26.4%	24.9%

20/43



3. 事業別状況・トピックス



3.事業別状況・トピックス-(1) ダイカスト事業



ダイカスト事業 -クルマを軽くする-

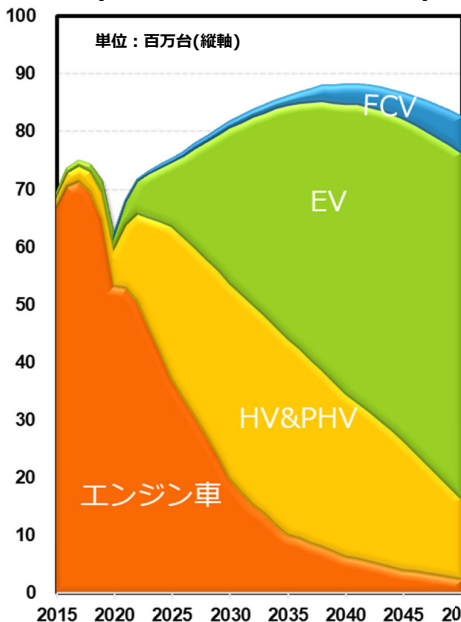
ダイカスト需要予測 - 一体化を活かした材料置換による増加 -

- アジア、ウクライナ問題等地理学的リスクはあるが長期的な自動車販売予測は変更なし
- トランスミッション・エンジン部品は縮小
- ボディ・シャシー、電動化部品は増加

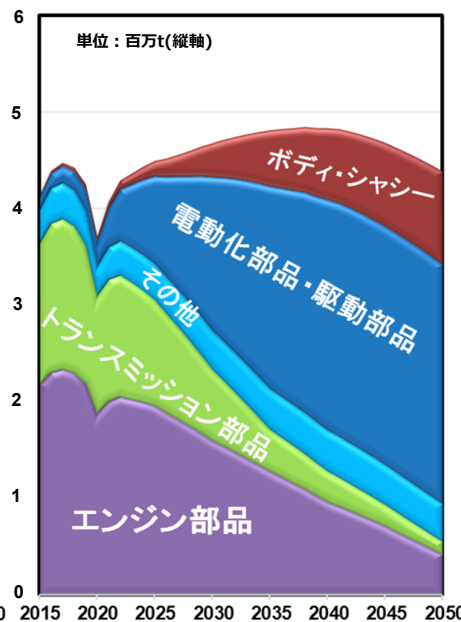
販売台数ベース

主要国：日本、欧州、米国、中国、インド '21/10時点

パワートレインミックス予測 (主要国の自動車販売台数合計)



ダイカスト需要予測 (主要国の重量合計)



①鉄→アルミニウム

ボディ・シャシー、バッテリーケース

✓新しい市場を創出する

✓優位性: 板金・鋳鉄 vs アルミ/樹脂

・ 環境性能・成型性能・材料特性



②ICE関連部品→電動化部品

eアクスル、インバーターケースなど

✓直近で需要が増加しICE関連の減少分を補う



ダイカスト事業 -クルマを軽くする-

軽量化・電動化への取組み -アルミダイカストの優位性-

◆ アルミダイカストの特徴 (鉄との材料特性の比較)

✓ 軽い	鉄と比較して2-4割程度軽量化できる →走行時のCO2排出削減に貢献
✓ 耐食性が優れている	一般使用部では塗装不要 塗装必要時でも仕様を落とせる
✓ 熱伝導率が優れている	放熱設計に有利
✓ 溶解時のエネルギーが鉄の1/2以下	再生塊のCO2排出量が少ない
✓ 資源循環を実現	サステナブルマテリアル

◆ 樹脂の動向：軽量化に効果はあるが、放熱性、剛性、コスト、リサイクル性に課題あり

23/43

ダイカスト事業 -クルマを軽くする-

軽量化・電動化への取組み -アルミダイカストの優位性-

◆ 材料の置換や一体化による軽量化の具体例 (製品化済)

(ナックル)

(バッテリーケース)



砂型铸造铸铁

重量：4.8kg



アルミ

重量：2.6kg

当社独自の鑄造法であるGDスクイズ法*により、ナックルの重量を約46%削減することに成功

*GDスクイズ：
傾斜鑄造に加圧を組み合わせた当社独自の工法
生産性、寸法精度に優れている



鉄からアルミダイカストに材料を変えることで、軽量化、部品点数減、リサイクル性向上等の利点

工法	鋼板	アルミダイカスト
リサイクルと品質	リサイクルのたびに、品質が下がる	ほぼ品質の低下を伴わずリサイクル可能
重さ*1	重い	軽い (鉄の約1/3)
走行時のCO ₂ 排出量	多い	少ない

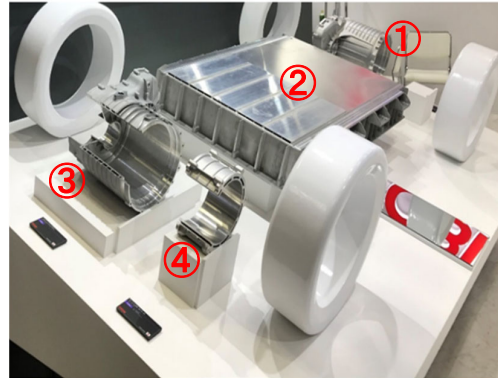
*1 同一の体積で比較

24/43

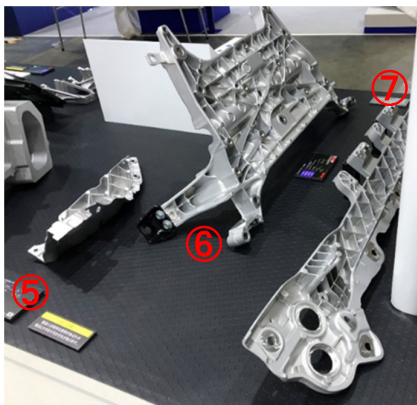
ダイカスト事業 -クルマを軽くする-

軽量化・電動化への取組み -人とするまでのテクノロジー展に出展-

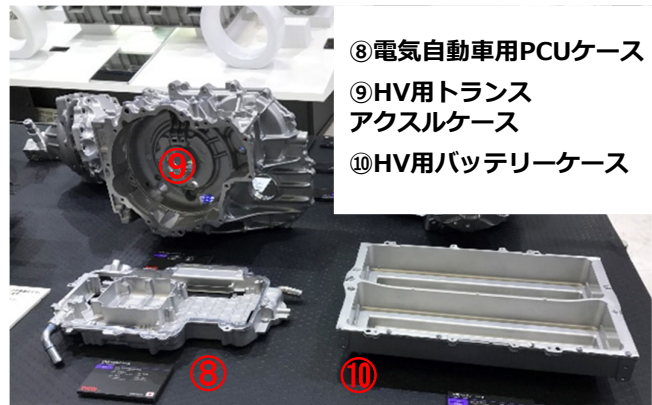
カーボンニュートラルの実現に向けて、電動車向けに開発した製品やボディ・シャシーなどの量産製品を多数展示し、自動車の軽量化に貢献する様々な提案を実施



- ①eアクスルケース
- ②バッテリーケース
PHV向け多穴板
レーザー接合タイプ
- ③eアクスルケース
(カットモデル)
- ④テーパーレス
モーターケース



- ⑤ドアウインドウ
プレート
- ⑥フロント
サブフレーム
- ⑦カウルトップ



- ⑧電気自動車用PCUケース
- ⑨HV用トランス
アクスルケース
- ⑩HV用バッテリーケース

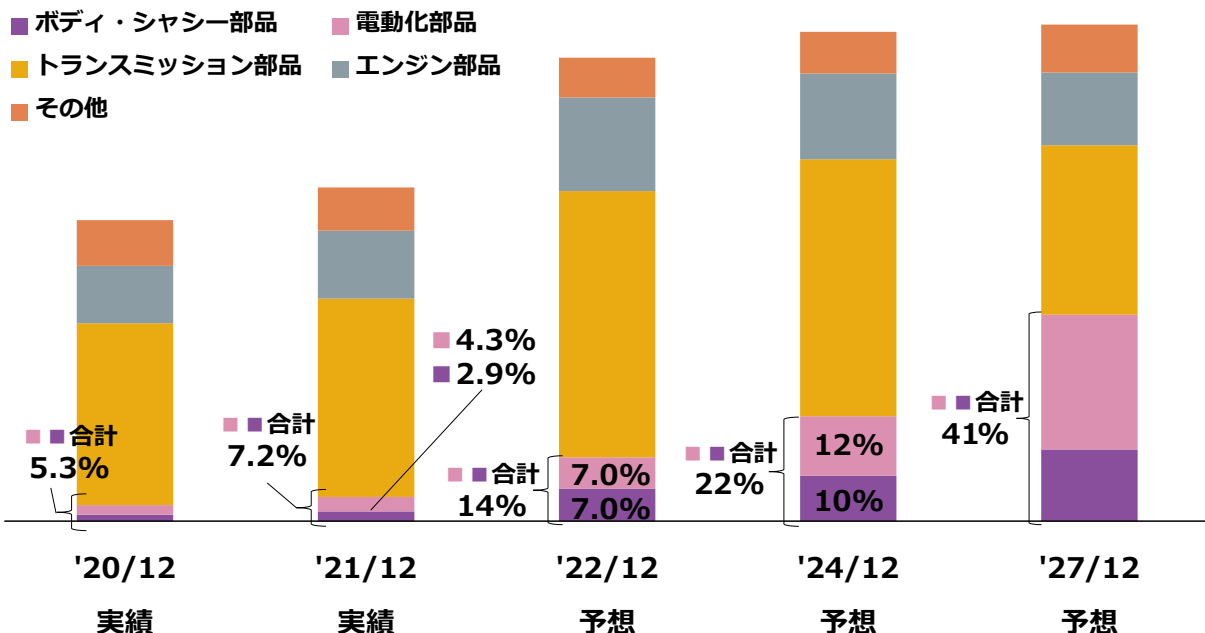
25/43

ダイカスト事業 -クルマを軽くする-

軽量化・電動化への取組み- 戦略製品の売上高構成比 -

2022年第2四半期累計新規受注のうち約75%が軽量化部品、電動化部品
受注は堅調に推移しており、将来的な収益の柱になることを期待

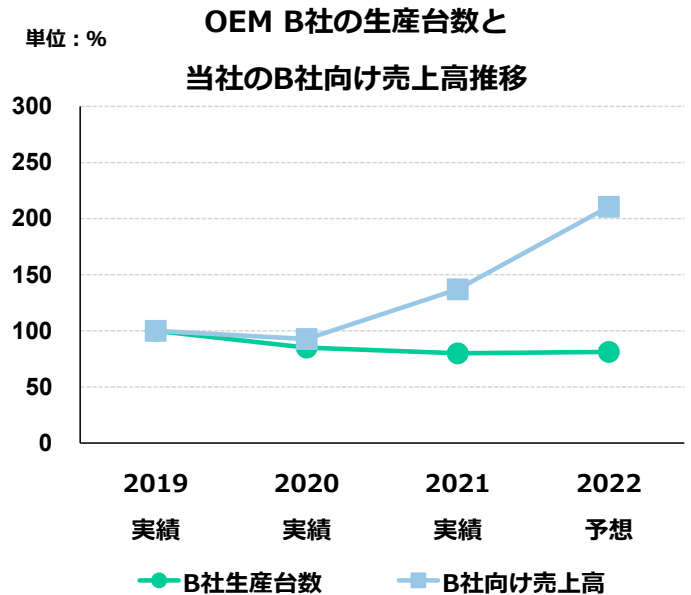
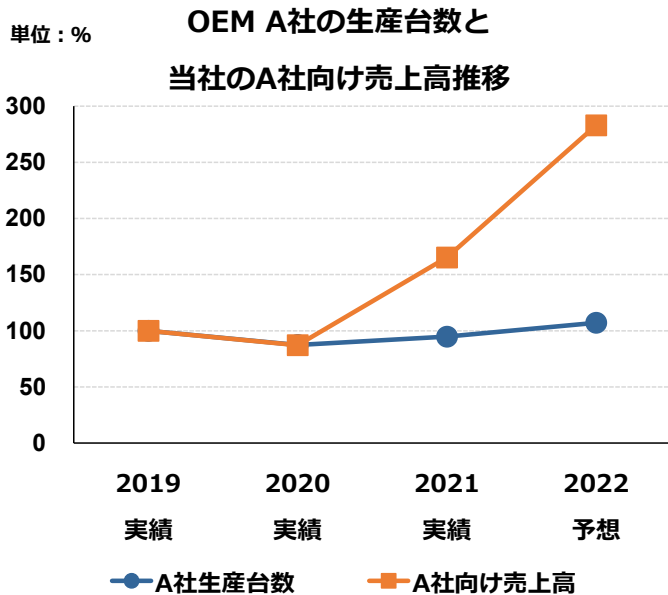
ボディ・シャシー、電動化部品の売上高構成比



ダイカスト事業 -クルマを軽くする-

軽量化・電動化への取組み-ボディ・シャシー、電動化部品の売上への影響-

- 2020年以降、COVID-19や半導体不足で自動車生産が停滞する環境下、OEM 2社の生産台数は横ばい(2019年比)
- 一方、2社への当社の2022年売上高は2019年比約2~3倍になる見込み
- 量産開始数年前からアルミ化を提案、ゲストエンジニアの派遣、試作品の提示、ダイカストの環境性能と当社の開発力をPRし受注獲得



※ 生産台数、売上高ともに2019年を100%としている
 ※ 売上高は、2019年を基準に原料や為替の変動影響を除いている

ダイカスト事業 -クルマを軽くする-

軽量化・電動化への取組み-戦略製品の受注獲得-

戦略製品の受注は堅調に推移

当社のボディ・シャシー、電動化部品が搭載されている車種



量産開始済 (過去1年以内に)

製品内容	
ボディ・シャシー部品	フロントドアフレーム
	カウルトップパネル
	サブフレーム
電動化部品	モーターケース
	バインディングプレート
	バッテリーケース
	ディファレンシャルリテーナー

今後の量産開始予定品

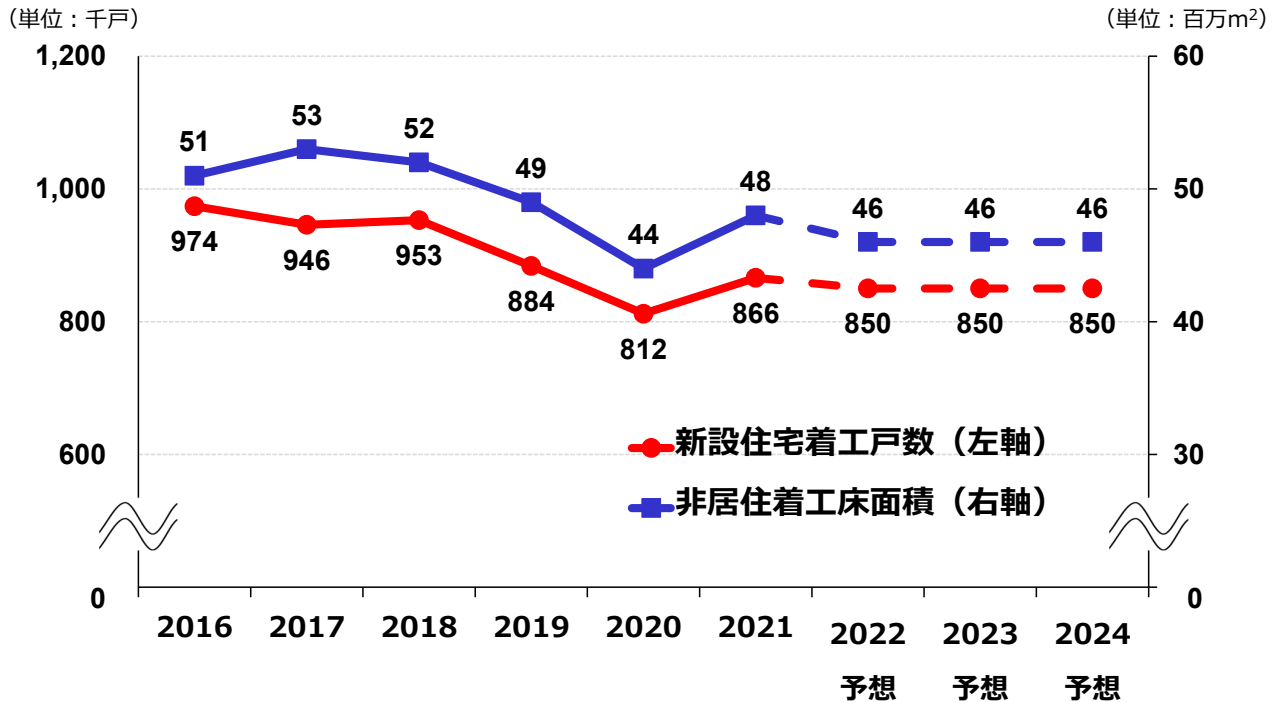
製品内容	
ボディ・シャシー部品	サブフレーム
	ステアリング部品
	ショックタワー
電動化部品	ステアリングナックル
	カウルトップパネル
	モーターハウジング
	モーターエンドカバー
	コンバーターケース
	インバーターケース
	HEV トランスミッションケース
	HEV コンバーターハウジング
PHV トランスミッションケース	
バッテリーケース	

住建機器事業

— ドアの出入りを気軽に —

国内の建築用品市場の予測

2022年以降新設住宅着工戸数は850千戸程度、非居住着工床面積は46百万m²程度での推移を予想



実績出典：国土交通省、2022年以降は当社予測

29/43

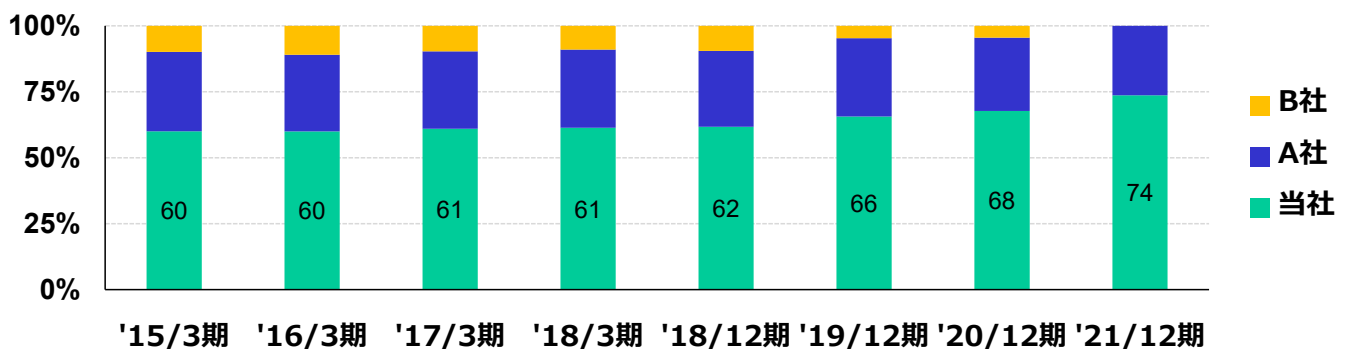
住建機器事業

— ドアの出入りを気軽に —

販売シェアの状況

国内ドアクローザの市場シェア

出典：当社推定



今期受注獲得物件



品川開発プロジェクトI期4街区



三田3・4丁目開発プロジェクト

今期納入開始物件例



虎ノ門・麻布台プロジェクト

J Pタワー大阪梅田

- 2021年3月、競合B社がドアクローザ事業から撤退したため、当社の販売シェアは更に上昇
- 当社のビル市場での採用比率は、首都圏で8割超、関西圏で6割超。高い市場シェアを活かし、安定的な売上を確保

30/43

住建機器事業

— ドアの出入りを気軽に —

販売/製造での取組み

収益性向上に向けた取組み

- 国内市場におけるシェア拡大
戸建住宅市場シェアはほぼ100% → 全体で市場シェア85%
ビル市場シェア70%を目指す
- 高付加価値商品の売上拡大
次世代の主力商品の提案
- 最適地生産の推進
中国人民元高に伴う原価高リスクの軽減や顧客への安定供給を目指し、
日本生産を高めることを推進中
国内ドアクローザ自動生産ラインでの生産量を約2倍に増加予定
- 生産性の更なる向上
内製化の推進（外注加工品の内製）
省人化の推進（組立検査ライン更新）
- 販売価格の改定
原材料価格の高騰を自社で吸収すべくコストダウンに努めているが、自社で
すべての吸収はできないため、価格改定（値上げ）を実施
- 海外市場での売上高拡大
重点市場でのスペックイン営業の定着
新規市場の開拓

31/43

住建機器事業

— ドアの出入りを気軽に —

戦略商品拡販に向けた取組み — 戦略商品の認知向上と機能拡充 —



2022年6月に開催された「建築材料・住宅設備総合展 KENTEN 2022」に出展し、戦略商品を紹介

外部システムと連携させた電動式ドア開閉装置
「RUCAD（バッテリー付き仕様）」



ICカードや顔認証機器などと連携し、
様々なシーンで非接触でのドア開閉が可能に

大型のドアでも軽く開いて
しっかり閉まるGC-6V



ドアがゆっくり閉まり始める
「ディレードアクション」機能を
搭載したGCA-4V



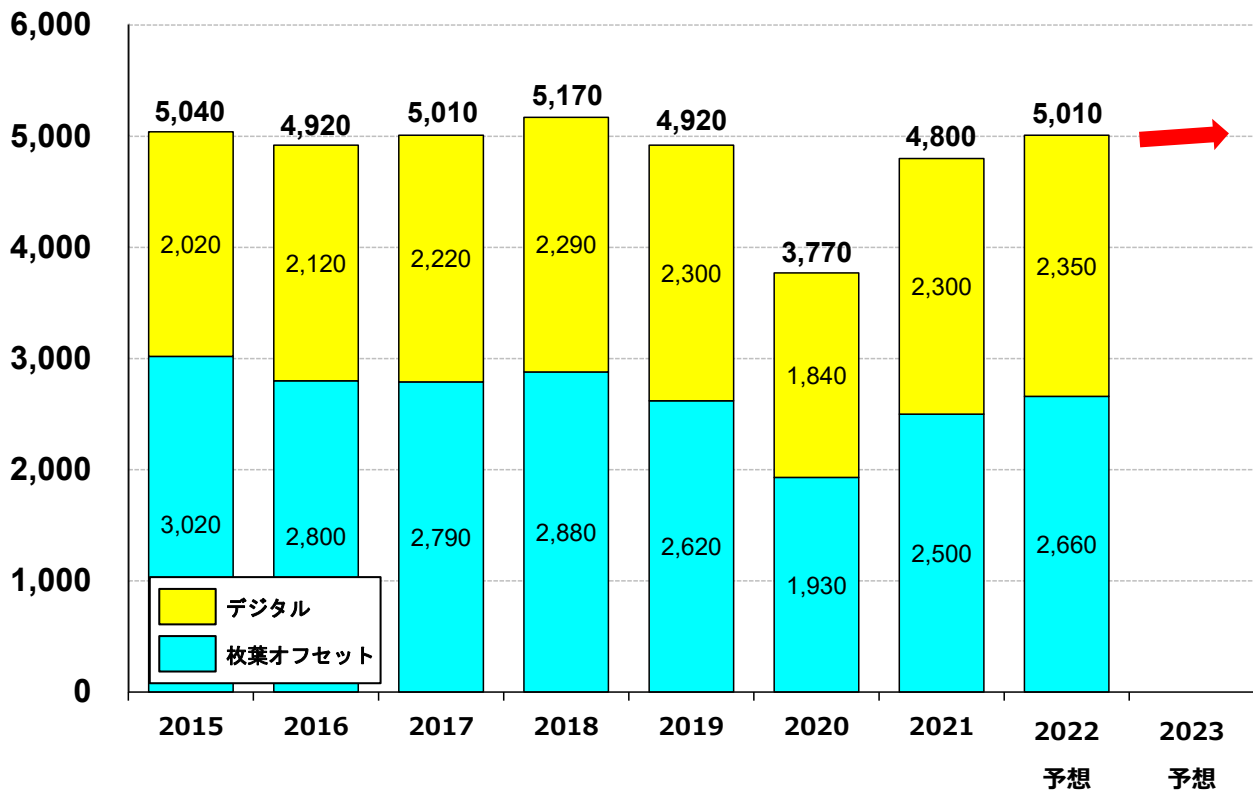
32/43

印刷機器事業

- 作業負担を軽くする -

世界の枚葉印刷機市場(全サイズ)の予測

(単位：億円)



出典：各社の決算資料等よりRMGTで推測(2022年7月)

33/43

印刷機器事業

- 作業負担を軽くする -

販売/製造での取組み

印刷機の機能向上、顧客との関係強化、収益性向上に向けた取組み

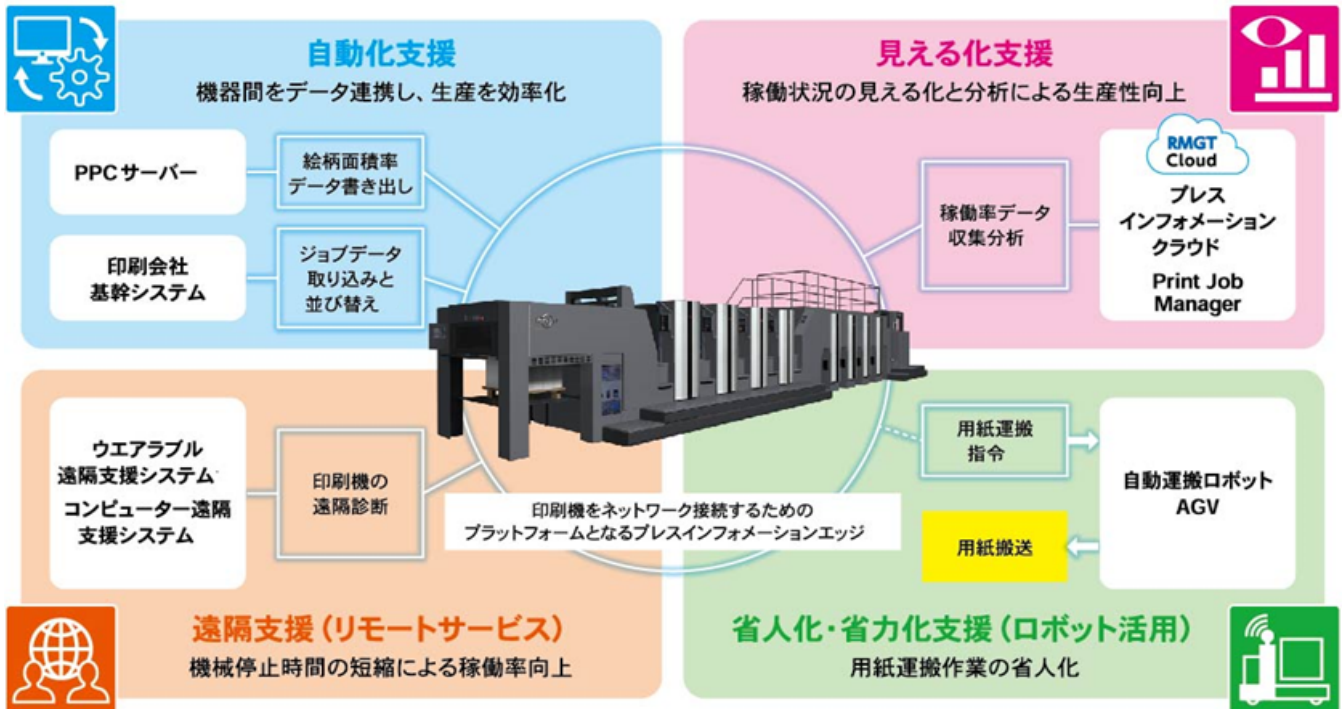
- ・ 周辺装置との連携による自動化
 - AGVや周辺装置のシステムの連携
 - 後加工機との連携
- ・ 印刷機の自動化・省力化・アシスト機能の開発
 - 自動運転機能の開発
 - AIの活用
- ・ 顧客や代理店との関係強化
 - 顧客満足度の向上や技術交流会の開催
 - 新規顧客の開拓
- ・ 適正部品在庫管理と調達リスクへの対応強化
 - 生産リスクのある部品・装置の複数購買や内製化
- ・ パッケージ印刷用機能の開発
- ・ 主力機種のコストダウン

印刷機器事業 - 作業負担を軽くする -

周辺機器ビジネスへの取組み

印刷機自体にとどまらず、工場全体の最適提案を行う
周辺機器メーカーと協働し、印刷工場のスマートファクトリー化を実現していく

RMGTスマートファクトリーソリューションコンセプト



35/43

印刷機器事業 - 作業負担を軽くする -

印刷工場のスマートファクトリー化に向けたコンソーシアムの設立

周辺機器メーカーとコンソーシアムを形成し、印刷工場のスマートファクトリー化などを通じてサステナブルな成長を目指す

Consortium for Sustainable Printing Industry

- ・ 当社だけでなく、印刷会社や印刷資材、印刷機器、周辺装置などさまざまな企業による、垣根を越えた連携・共創で、印刷業界に新たな価値を提供していく
- ・ コンソーシアムに参加するすべての企業が、「これからも社会にとって必要とされる会社」としてサステナブルな成長を続けることを目指す



36/43

統合報告書の発行について

リョービ 統合報告書 2022

ESGをはじめとする非財務面の取り組みを積極的に開示し、中長期的な成長性や強みをステークホルダーの皆様にご理解いただくために、「リョービ統合報告書 2022」を発行

〔主なコンテンツ〕

- ・ トップメッセージ
- ・ 価値創造プロセス
- ・ 培ってきた力
- ・ 中期的テーマと当社の取り組み
- ・ リョービの挑戦
- ・ ESG（環境・社会・ガバナンス）
- ・ 財務情報

RYOBI
INTEGRATED
REPORT
2022

統合報告書



当社ホームページに掲載中

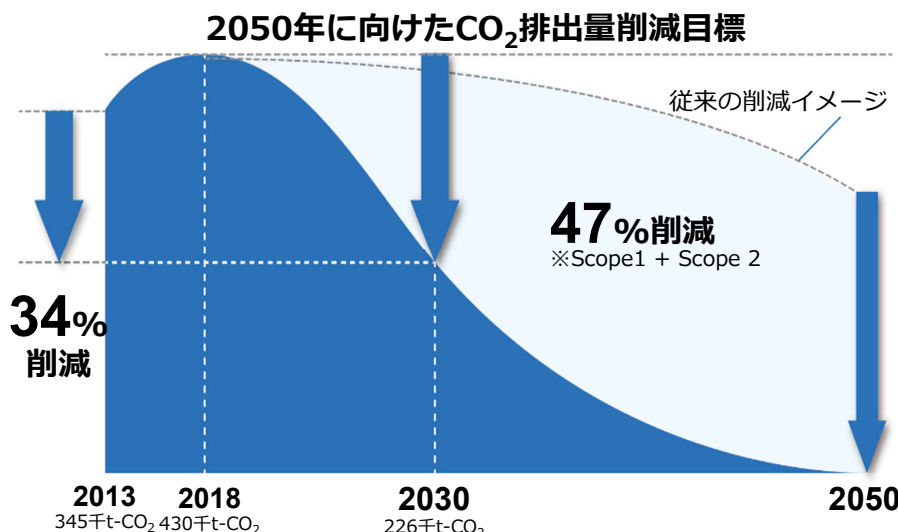
<https://www.ryobi-group.co.jp/ir/library/integrated.html>

サステナビリティ ESG/SGDs

環境への取り組み

2022年度環境目標

- ・ 2050年までにカーボンニュートラルを達成する
- ・ 2030年までにCO₂排出量を2018年度比で47%以上削減する※
(国内・海外とも)



カーボンニュートラルに向けた主な施策

- ・ エネルギー消費構造の認識と省エネルギー設備の導入促進
- ・ 再生可能エネルギーの利用(太陽光や水力など)
- ・ 低炭素燃料への転換(重油⇒LNG等)
- ・ 非化石エネルギーへの転換(水素やアンモニア等)

2050年カーボンニュートラルに向けてCO₂排出量削減ロードマップを作成中

※ CO₂排出量は、Scope1とScope2の絶対量
2013年度比で34%以上削減する(国内46%以上、海外25%以上)

サステナビリティ ESG/SGDs

環境への取組み -CO₂排出量削減に向けた取組み-

静岡工場でのアルミ溶解炉の使用燃料転換によるCO₂排出量低減

- 重油から都市ガスに転換
- CO₂排出量 △約4,000t-CO₂/年 (12,600t-CO₂ → 8,600t-CO₂ △31.7%)

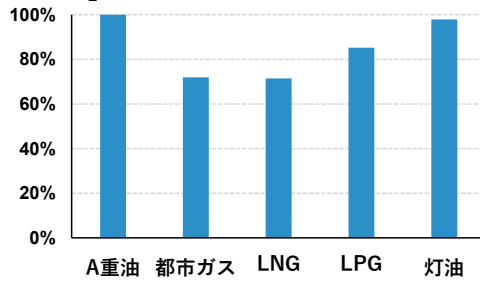
アルミ溶解炉のバーナー開度や送風調整による燃焼状態最適化

- 重油使用量 △約9,800ℓ/年
- CO₂排出量 △約27t-CO₂/年

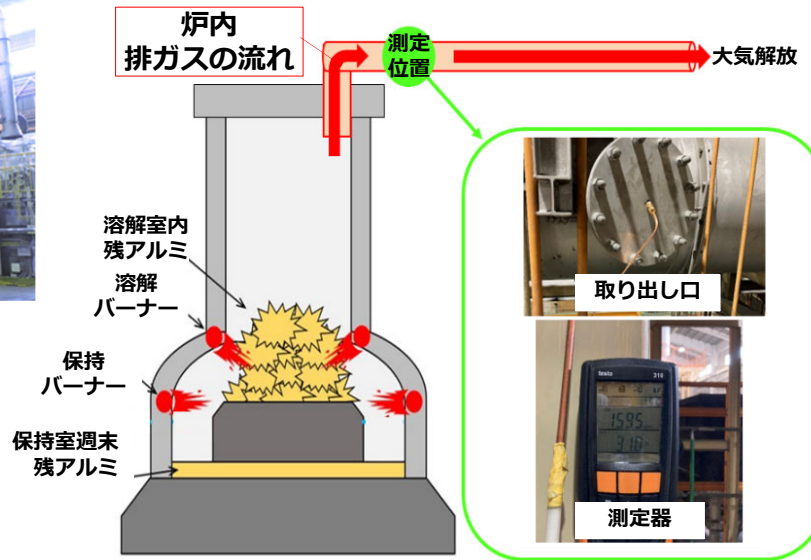
溶解炉のイメージ



燃料別CO₂排出量比較※



排ガスCO濃度測定イメージ



4. 株主還元

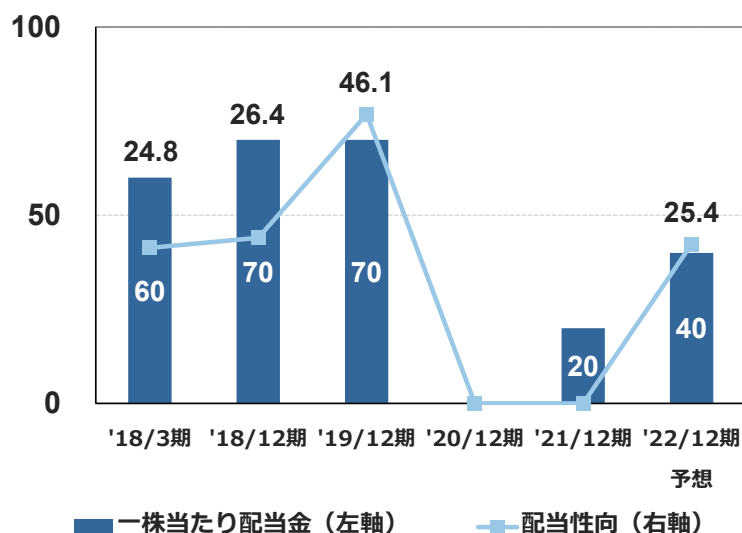


株主還元

一株当たり配当金・配当性向の推移

(単位：円)

(単位：%)



配当政策

- 中長期的に連結業績の向上を図り、成長投資と株主の皆様への安定した利益還元の維持を基本とする
- 安定的な配当継続に加え、配当性向30%程度を目安とし、諸条件を勘案の上決定する

配当の状況

- 2021年12月期については経常損益及びフリーキャッシュフローの黒字化、安定的な配当継続を考慮し復配（年間20円）
- 2022年12月期は、年間40円の配当を予定

	'18/3期	'18/12期	'19/12期	'20/12期	'21/12期	'22/12期 予想	'23/12期 予想
一株当たり 配当金(円)	60	70	70	0	20	40	配当性向 30%程度
配当性向(%)	24.8	26.4	46.1	-	-	25.4	

41/43

将来予測に関する注意事項

当資料には、当社の計画・戦略・業績等の将来予想に関する情報が含まれています。

これらの記載は、現在入手可能な情報に基づいて当社が判断したものであり、これにはリスクおよび不確実な要素が含まれています。

当社の実際の行為、業績は、経済情勢、事業環境、需要動向、為替動向等により、将来予想とは異なる可能性があります。

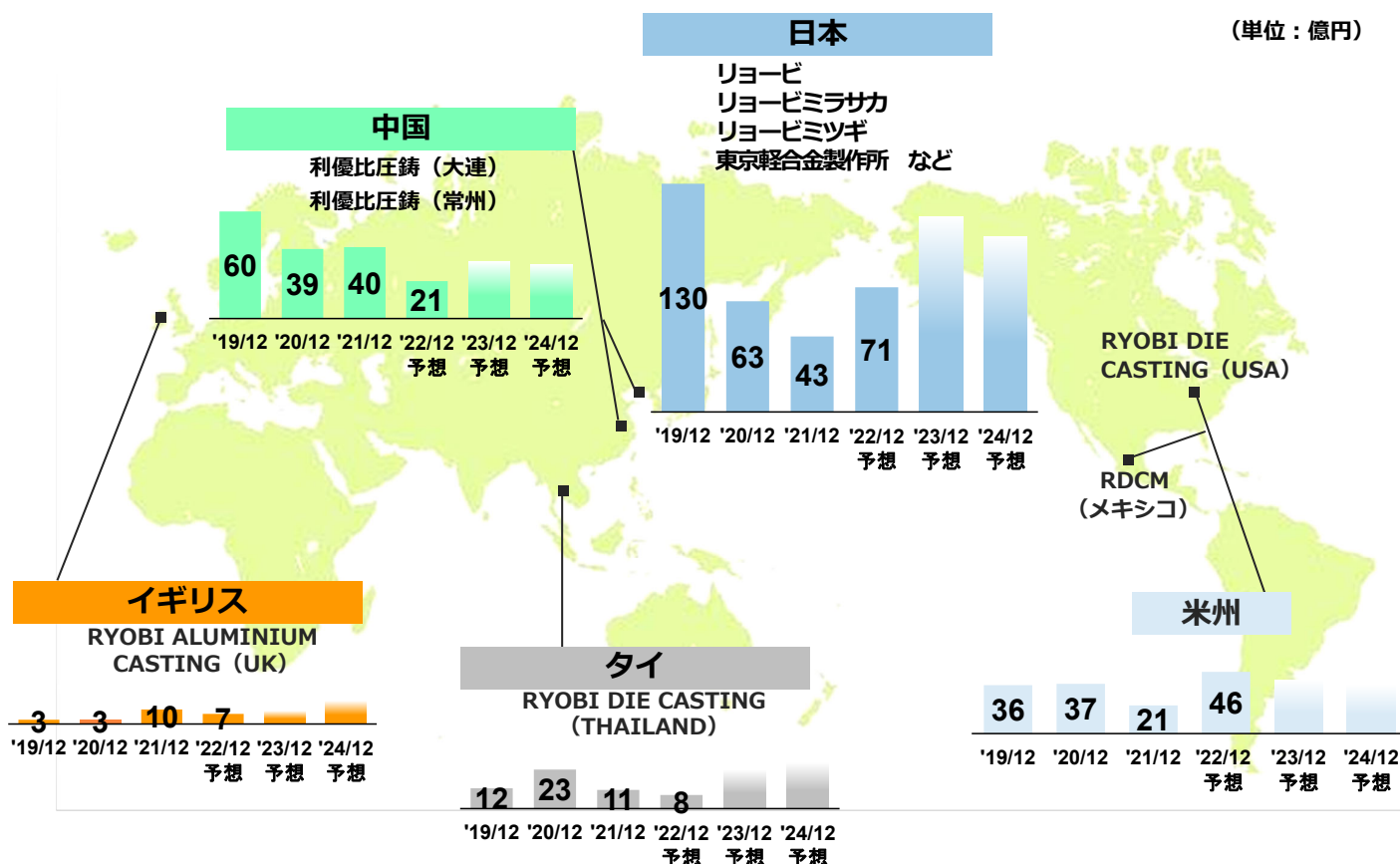
RYOBI

できたらいいなの、その先へ。

補足資料



地域別設備投資の予想



地域別売上高の予想

(単位：億円)

